広報 Ibaraki Public Information
いばらき
2025年（令和７年）
12月１日　発行
12
No.1142
December 2025

◆編集・発行
茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029－292－1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口
住民基本台帳
令和７年10月末現在
男　15,138人
女　15,107人
総人口　30,245人
世帯数　13,748世帯

◆茨城町民憲章
1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花　桜
◆町の木　梅
◆町の鳥　うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合
防災行政無線テレフォンサービス
☎０８００－８００－８８４８
（通話料無料）
町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!
●町公式ホームページ
https://www.town.ibaraki.lg.jp/
●町公式Ｘ（旧ツイッター）
https://twitter.com/IbarakiTownMati/
●町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/
●町公式ライン
https://page.line.me/?accountId=ibarakitown

里山に育む生きものたち

№161　カンムリカイツブリ

学名　*Podiceps cristatus*

写真・文　仲田　立

▼カンムリカイツブリ（冠鳰）とは

和名の由来は、頭の上に冠をかぶっているような冠羽を持つことから。雌雄同色で、虹彩は赤く、嘴は真っ直ぐです。冬羽は、飾り羽がなく、顔から前首、体下面は白く、頭頂から後首、体の上面が黒い（写真）。夏羽は、額から頭頂は黒く、冠羽状になっています。後頭には、橙色の飾り羽が発達します（写真１）。冬鳥として湖沼や沿岸など様々な環境で見られます。カンムリカイツブリは、涸沼で冬には普通にみられるので冬羽の印象が強い。３月頃まで残る個体は、夏羽になる場合があります。単独で見られる場合が多いが、数十羽の群れを作ることもあります（写真２）。

▼カンムリカイツブリの数

カンムリカイツブリは、涸沼で２番目に多いカイツブリ類で、ここ10年の間、11月から３月の多い時に１００羽ほど確認できる日があった。通常では、他の群れには混ざらず、単独か数十羽程度の場合が多い。筆者のデータでは、２０１５年から毎年のように数を減らしていて、今後が心配な種の一つです。

▼換羽

鳥の換羽とは、全身あるいは一部の羽毛を更新することです。夏羽は繁殖期の羽で、生殖羽ある いは繁殖羽とも言われ、冬羽に比べて鮮やかで、種によっては飾り羽を伴います。冬羽は、夏羽に比べて地味なことが多く、非生殖羽、非繁殖羽とも言われます。

成鳥が夏羽から冬羽にかわることは、ツル等の外毎年１回すべての鳥が行い、全身完全換羽です。大多数の鳥は、繁殖を終えると直ちに換羽に入り、晩秋に換羽を終えて冬羽になります。

つぎに、夏羽を生じるための換羽は、すべての鳥が行うわけではなく、また通常は体羽またはその一部のみをかえます。通常、繁殖期の直前、この換羽が終了します。ただし、カモ類は例外で、夏の終わりごろから換羽をはじめ11月頃に終了するので、冬の間を生殖羽（夏羽）で過ごします。

写真１　夏羽のカンムリカイツブリ

写真２　カンムリカイツブリの群れ

ちびっ子アート　まさみ幼稚園

「ぶどう畑で甘いぶどうを
いっぱい食べたよ」
よこやま　もえか（５歳）

「どきどきしたスイカわり」
まつうら　めい（５歳）

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています